



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



令和7年4月30日

市政記者クラブ 様

環境局環境企画部環境企画課
なごや生物多様性センター
鶴原、梶田（TEL:831-8104）

「名古屋市版レッドリスト2025」「レッドデータブックなごや2025」を公表します！

「名古屋市版レッドリスト2020」を改訂した「名古屋市版レッドリスト2025」を、本日公表しました。今回の改訂では絶滅のおそれのある種を63種追加し、476種が掲載されています。またレッドリストの改訂にあわせて、絶滅のおそれのある野生生物への理解を深め、適切な配慮を促すことを目的として、「レッドデータブックなごや2025」を作成し、市公式ウェブサイトに掲載しましたのでお知らせします。

1 概要

名古屋市では、絶滅のおそれのある野生生物への理解を深めていただくとともに、適切な配慮を促すことを目的として、レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）を作成しています。令和3年度から6年度にかけて市内の動植物の調査を行うとともにレッドリストの見直し作業を進め、この度、「名古屋市版レッドリスト2025」を取りまとめました。あわせて、名古屋市版レッドリスト2025に掲載されている種について、1種につき1ページずつ種の選定理由、形態、分布、生息・生育状況等を取りまとめた「レッドデータブックなごや2025」を作成しました。

2 掲載種数

816種

うち絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種） 476種

3 「レッドデータブックなごや2025」掲載内容

絶滅のおそれのランク（名古屋市2025、愛知県2025、環境省2025（動物編は2020））、写真、選定理由、形態、分布の概要、生息地の環境／生態的特性、現在の生息状況／減少の要因、保全上の留意点、特記事項、関連文献

4 レッドデータブックの閲覧

本日より、市公式ウェブサイトで内容が閲覧できます。

ウェブサイト URL

<https://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-5-22-2-3-0-0-0-0-0.html>



5 今後の予定

令和7年夏頃に、閲覧用として印刷したものを名古屋市立図書館、名古屋市環境学習センター（エコパルなごや）等に配架する予定です。

両生類 <無尾目ヒキガエル科>

アズマヒキガエル *Bufo formosus* Boulenger, 1883

評価理由

25 年ほど前までは市内でも丘陵地を中心に多く生息しており、産卵シーズンになると多くの「ガマ合戦」が見られていた。しかし、近年市内各地で産卵数が激減し、繁殖集団の消失が止まらないため。

形態

頭胴長は 43～162mm と変異が大きい、多くは 70～130mm。小さな個体は東北地方と中部地方の山岳部などで見られる。背面は茶褐色、黄褐色、赤褐色とバリエーションがあり、腹部側面には白や黒、茶褐色のまだら模様が入る。オスは繁殖期になると体表が滑らかになり、黄褐色がより強くなる傾向がある。

分布の概要

市内：主に東部の丘陵地に生息。公園や庭先などでも見られる。中区白川公園に人為分布。

県内：尾張東部、三河地方、知多半島、渥美半島に広く分布

国内：本州近畿及び山陰以北、北海道と佐渡島及び伊豆大島は人為移入。

世界：日本固有種

生息地の環境／生態的特性

平野部の丘陵地や畑、公園。山地の森林や溪流沿いにも生息する。繁殖期は 2～7 月だが、平野部では 2～3 月に産卵するのが一般的。通常成体は産卵後に一か月ほど春眠する。産卵数は 1500～8000 個で、紐状の卵塊を産む。幼生は 30mm ほどで変態する。変態後の幼体は成長が早く、オスで一年後の秋に性成熟し、メスではその一年後に性成熟をする。市内では通常 3 月中旬頃に産卵する。

現在の生息状況／減少の要因

丘陵地を中心に生息するが、近年急激に個体数が減少しており、産卵が見られなくなった場所も数か所存在する。繁殖期になると、オスが繁殖場所に現れ、メスが完全に現れなくなる現象が数カ所で確認される事があり、繁殖集団が消失寸前である事が推察される。名古屋市市内の総産卵数は 10 卵塊ほどと極めて少なく、絶滅危惧度が極めて高い。中区の白川公園に生息する繁殖個体群は、近くで飼育繁殖した個体が逃げ出し、定着した個体群であるが、近年は減少した様子である。

保全上の留意点

市内の個体群が激減した理由は不明だが、今後各繁殖集団の個体群動態を観察する必要がある。生息地である丘陵地などの開発や変遷にも注意が必要である。

特記事項

白川公園に定着している繁殖集団は、平和公園の個体群であることが明らかとなっている。平和公園、猪高緑地、東山公園南部の個体群は、ここ数年産卵が確認されなくなった。平和公園ではニホンヒキガエルとの交雑個体である幼生が確認されている（島田，2018）。

引用文献

島田知彦, 2018. グリーンデータブック 2018 両生類編；アズマヒキガエル. B-5. 愛知県.

関連文献

浅香智也・寺本匡寛・島田知彦. 2017. アンケート調査に基づく名古屋市市内のアズマヒキガエルの分布変遷. 爬虫両棲類学会報. (2) : 164-171.

前田憲男・松井正文, 1999. アズマヒキガエル. 改訂版日本カエル図鑑, pp.18-21. 文一総合出版, 東京.

浦野明央・石原勝敏 編, 1987. ヒキガエルの生物学. 289 p. 裳華房, 東京.

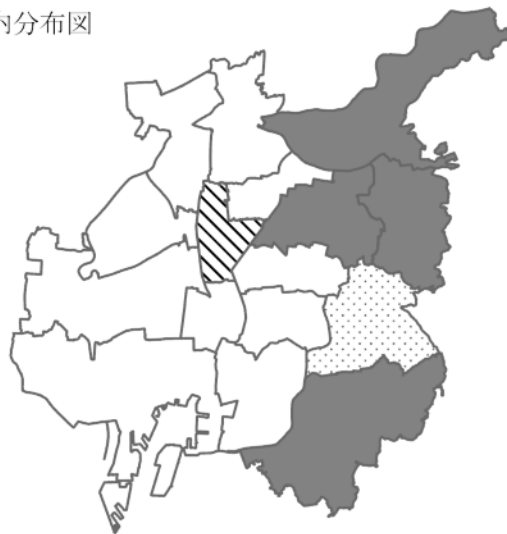
評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2020	—



中川区、2024 年 2 月 20 日、藤谷武史 撮影

市内分布図



(藤谷武史)